

令和6年度
自己評価 報告書

評価期間 自:令和 5年4月 1日
至:令和 6年3月31日

令和6年3月31日

専門学校日本デザイナー学院

本報告書は平成25年3月に文部科学省生涯学習政策局の作成『専修学校における学校評価ガイドライン』及び、特定非営利活動法人私立専門学校評価研究機構の作成『第三者評価システムの概要Ver 4.0』に準拠し実施した。

目次

1. 学校の教育目標と使命	P3
2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画	P3
3. 点検項目の評価結果	P4～10
(1) 教育理念	P4
(2) 学校運営	P4
(3) 教育活動	P5
(4) 教育成果	P6
(5) 学生支援	P6・7
(6) 施設整備	P7
(7) 学生募集	P7・8
(8) 財務	P8
(9) 法令順守	P8・9
(10) 社会貢献	P9
(11) 国際交流	P9・10
4. 自己評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	P10
(1) 教育評価	P10
(2) 財務評価	P10
(3) 一般的評価	P10

1. 学校の教育目的と使命

目的：「生活と文化に携わる有能なクリエイターを育成する」ことを目的とする。

使命：職能上必要とされる技能を履修させ、教養を積み、同時に人間形成に努め
社会人としての自覚と責任を持つ人材の育成を使命とする。

【職能的指導方針】

1. 基礎知識、技術の習得
2. 専門基礎知識、技術の習得
3. 専門知識、技術の習得

プロとしての基本知識と技術の習得、創造性豊かな人材育成を教育指導方針とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ・教育内容の整備: 業界のニーズに合わせた実践的な教育と企業や行政との産学連携を徹底し、各コンテスト等での受賞を目標とする。
- ・学習環境の整備: 古くなった機材の入れ替えを行い、最先端の学習環境の整備を行う。
- ・情報公開の整備: 学園の基本情報等を公開し、外部の方へからへの透明性と理解度を高める。

3. 自己点検・評価項目の結果

(1) 教育理念に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
1-1)	教育理念・教育目標は示されているか	4…適切
1-2)	学校の特色は示されているか	4…適切
1-3)	学校の将来構想は示されているか	4…適切
1-4)	学校の理念・目的・特色などが学生・保護者に周知されているか	3…ほぼ適切
1-5)	各科の教育目標、人材育成像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3…ほぼ適切

①課題

学科による周知の徹底に差があり、情報共有が不足した学科があった。

②今後の改善方策

各科に沿った情報を共有しやすい講師分科会での周知内容を改めて調整。
また学科ごとの教育目標など、視覚的にみやすい形に見える化を行い共有する。

③特記事項

学校としての将来ビジョンがあり、そこに向かうマインドを関係者が持っているなどの意見もあり、関係者と共に学校が発展していくよう最善を尽くす。

(2) 学校運営に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
2-1)	運営方針は定められているか	4…適切
2-2)	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4…適切
2-3)	運営組織や意思決定機能は示されており機能的な構成となっているか	4…適切
2-4)	人事や給与での処遇に関する制度は整備されているか	4…適切
2-5)	意思決定システムは確立されているか	3…ほぼ適切
2-6)	業界や地域社会に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4…適切
2-7)	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4…適切
2-8)	情報システム等による業務の効率化が図られているか	4…適切

①課題

情報システムの再整備も行い全体として高い評価となっている。大きな課題は現状では発生していないが細かな調整や情報の周知を今後も継続して徹底していく。

②今後の改善方策

システムが数種に分かれているため、混乱しないようマニュアルの整備や周知が必要となる。

③特記事項

[]

(3) 教育活動に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
3-1)	教育活動は教育理念等に沿った編成・実施方針となっているか	4・・・適切
3-2)	カリキュラムは業界の人材ニーズに対応しているか	3・・・ほぼ適切
3-3)	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3・・・ほぼ適切
3-4)	キャリア教育・実践的な職業教育の視点にたったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが反映されているか	3・・・ほぼ適切
3-5)	定期的カリキュラムの見直しはなされているか	3・・・ほぼ適切
3-6)	関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	3・・・ほぼ適切
3-7)	成績評価の基準は明確になっているか	3・・・ほぼ適切
3-8)	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3・・・ほぼ適切
3-9)	授業評価は実施されているか	4・・・適切
3-10)	資格取得等に関する指導体制やカリキュラムはできているか	3・・・ほぼ適切
3-11)	人材育成目標の達成に向けて授業を行う講師を確保しているか	3・・・ほぼ適切
3-12)	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	3・・・ほぼ適切
3-13)	関連分野における先端的な知識・技能等を取得するための研修や教員の指導力育成や向上のための取組が行われているか	3・・・ほぼ適切
3-14)	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3・・・ほぼ適切

①課題

[移り変わりが早いクリエイティブ業界に柔軟に対応していくため、業界各所および講師とのより詳細な連携が必要となる。そのうえでカリキュラムの改革・改革内容のスムーズな共有などの徹底が課題となる。]

②今後の改善方策

[情報共有手段は確立されているため、システムを活用した定期的な情報共有を徹底する。また、講師会での情報共有について科によって伝達内容に差が出ないように調整する。また、同時に情報の見える化および会議の定期開催などを徹底し、講師からの意見収集をカリキュラムに反映できるよう再整備を行う。]

③特記事項

[]

(4) 教育成果に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
4-1)	就職率を向上させるための施策は図られているか	4…適切
4-2)	資格取得またはコンテストでの受賞の向上が図られているか	3…ほぼ適切
4-3)	退学者を減らすための施策は図られているか	3…ほぼ適切
4-4)	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3…ほぼ適切
4-5)	卒業後の社会的な活動を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3…ほぼ適切

①課題

[校友会活動の活性化。実施した対策の周知。]

②今後の改善方策

[卒業生有志団体に構成されている校友会活動について年間を通したイベントの実施などを行い、卒業生が集える機会と場を設ける。また実施した施策の見える化を行い情報共有を徹底していく。]

③特記事項

[]

(5) 学生支援に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
5-1)	就職に関する支援体制は整っているか	4…適切
5-2)	学生相談などの支援体制は整っているか	4…適切
5-3)	学生への奨学金等の経済的支援は整っているか	4…適切
5-4)	学生の健康管理に関する支援体制は整っているか	4…適切
5-5)	課外活動に関する支援体制は整備されているか	4…適切
5-6)	学生の生活環境への支援体制は整備されているか	3…ほぼ適切
5-7)	保護者と適切に連携しているか	4…適切
5-8)	卒業生への支援体制はあるか	3…ほぼ適切
5-9)	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3…ほぼ適切
5-10)	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3…ほぼ適切

①課題

[社会人に対する教育環境の整備。]

②今後の改善方策

〔 設置学科の関係上、社会人のニーズを重視することは難しい。ただし退職後、入学する社会人層に関しては特に就職の部分でサポートを強める必要はある。 〕

③特記事項

〔 今年度も高等学校との産学連携や特別授業、部活動支援などを実施した。 〕

(6) 施設設備に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
6-1)	施設・設備はカリキュラムに対応出来ているか	3・・・ほぼ適切
6-2)	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3・・・ほぼ適切
6-3)	防災体制は整っているか	4・・・適切

①課題

〔 最新の機材へ対応するための機材管理。 〕

②今後の改善方策

〔 古くなった機材の入れ替え。必要機材の充実。 〕

③特記事項

〔 2024年度も古くなった機材の入れ替えを行う。 〕

(7) 学生募集と受け入れに関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
7-1)	学生募集の活動は希望者の意向を配慮し適切に行われているか	4・・・適切
7-2)	教育内容を適切に学生募集に反映しているか	4・・・適切
7-3)	入学選考の時期・基準・方法は適正か	4・・・適切
7-4)	納付金は妥当なものとなっているか	4・・・適切

①課題

〔 特になし。 〕

②今後の改善方策

[]

③特記事項

[今後も広く学校を知ってもらい、入学希望者とのミスマッチが起きないように周知を徹底する。]

(8) 財務に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
8-1)	中長期的な財務基盤は安定しているか	4…適切
8-2)	予算・収支計画は有効かつ妥当か	4…適切
8-3)	会計監査は適正に行われているか	4…適切
8-4)	財務情報公開の体制整備はできているか	4…適切

①課題

[特になし]

②今後の改善方策

[]

③特記事項

[学園本部と連携し予算・収支計画の管理を行い監事による経理監査など、財務基盤に関わる業務について徹底して整備されている。]

(9) 法令順守に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
9-1)	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4…適切
9-2)	個人情報に関して、その保護のための対策がとられているか	4…適切
9-3)	自己評価の実施と問題点について改善に努めているか	4…適切
9-4)	自己評価結果を公表しているか	4…適切

①課題

[特になし。]

②今後の改善方策

[

]

③特記事項

[

法令、設置基準を引き続き遵守し適正な学校運営に努める。

]

(10) 社会貢献に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
10-1)	教育資源や設備を活用しての社会貢献はなされているか	4…適切
10-2)	学生のボランティア活動に対する支援は整備されているか	3…ほぼ適切
10-3)	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	3…ほぼ適切

①課題

[

ボランティア活動について、授業と課題量との兼ね合いにより、活動の推進と整備が課題となる。

]

②今後の改善方策

[

ホームルームを活用したボランティアの周知およびボランティア活動の産学連携への組み入れ。

]

③特記事項

[

]

(11) 国際交流に関すること

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
11-1)	留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4…適切
11-2)	留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	3…ほぼ適切
11-3)	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されている	3…ほぼ適切
11-4)	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3…ほぼ適切

①課題

[

留学生に対する募集活動の推進。

]

②今後の改善方策

日本語学校への訪問および留学生ガイダンスへの出席。

③特記事項

マレーシア校との連携により特別講演やマレーシア人留学生の受け入れ等を行っている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

(1) 教育評価

2023年5月から新型コロナウイルス感染症が5類に変更されたことによりコロナ禍前の状況にほぼ戻すことが出来た。入学式、SW、クリエイターサマーキャンプ、学園祭、卒業作品展、卒業式など、昨年同様に実施し、海外研修も2023年度は実施することが出来た。海外研修については海外の情勢も踏まえ、国内もしくは海外を選択できる仕組みとして実施した。県外特別ゲストによる特別講演や様々な企業との産学連携など、学校内だけに収まらない教育活動も多数実施。大手企業との連携なども動き出した。JAGDA学生グランプリでの入選やFukuokaWallArtProjectでの入賞など、多くのコンテストでも誇れる結果を残すことができた。

2024年度は多くの新入生を迎え入れていることもあり、個々の学生に対する対応に時間を費やし、学生達が安心して学べる環境づくりを重視したい。また、予防的対策を意識し、問題が起きない対策・起きた問題を速やかに解決する体制づくりを強化していく。

マレーシア校開校後、約2年が経過し、学生数も安定してきている。また在校生も2年生に進学したことにより様々な連携が出来る状態となった。2024年度はさらに連携を強化し、日本だけではなく海外でも活躍し続けることができるグローバルな感覚を持った人材育成に引き続き注力していく。

(2) 財務評価

定期的に経理監査を行い抜け漏れ、ミス等のチェックを行っている。理事会・評議員会で決算報告や予算報告等を行い承認を受けている。適正な予算・収支計画に基づき安定的な運営を行っている。

(3) 一般的評価

今年で56年目を迎えるデザインの専門学校として数々の実績を残してきた。九州地区で有数のデザイン専門学校といえる。多くのコンテストでの受賞実績や志望企業への就職などの結果は高い評価ポイントと言える。これまでの歴史のなかで輩出した多くの卒業生が現在も業界の第一線で活躍しており、優秀なクリエイターを輩出する優良校といえる。教育の質を高めるべく、九州で優秀な実績を残しているクリエイターや卒業生を講師として多く迎え、講師陣のさらなる充実を図ることができたことが実績に直結している。学園全体として掲げている「高付加価値教育」「ITの活用」「グローバル教育」は大きく進展を遂げており、今年度も重点的に注力していく。若手職員が経験を積んだことによる全体の職員スキルの向上に加え、新入職員を新たに迎え教育活動の充実化を図ると共に、さらなる質と結果を追求していく。マレーシア校を含めグループ4校の教職員連携をさらに強化し、高付加価値教育を各校学生に提供できるよう引き続き取り組んでいく。

